

地域公共交通確保維持改善事業の事業評価（案）

1 事業評価の目的

地域公共交通確保維持改善事業の事業評価は、当協議会が地域公共交通計画に位置付けられた補助対象事業について、事業の実施状況の確認や目標達成状況等の評価を行うことによって、補助対象事業がより効果的及び効率的に推進されることを目的としている。

2 事業評価対象期間

令和6年10月1日～令和7年9月30日まで

3 計画の概要

(1) 対象事業者

ア 北海道中央バス株式会社

イ 東千歳バス運行協議会

(2) 対象路線

ア みどり台線（1系統）

イ 桜木線（2系統）

ウ 東千歳デマンドバス（1系統）

(3) 事業の目標

対象路線における「収支率」と「利用人数」の目標を設定し、目標達成に向け利用促進などの取組を実施している。

4 事業評価の概要

事前に設定した目標に対し、事業の実績をもとに達成状況を評価する。

(1) 事業実施の適正性

【北海道中央バス】

「A：計画通り事業は適切に実施された。」

【東千歳バス運行協議会】

「A：計画通り事業は適切に実施された。」

(2) 目標・効果達成状況

【北海道中央バス】

「A：事業が計画に位置づけられた目標を達成した。」

【東千歳バス運行協議会】

「B：事業が計画に位置づけられた目標を達成できていない点があった。」

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 千歳市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
北海道中央バス株式会社	・みどり台線 千歳駅～みどり台北2丁目	路線の収支率の改善を図るため、バス事業者と利便性・採算性・公共性のバランスを考慮しながら現路線のダイヤ等の検証を行うとともに、利用者数の増加を目標にバス事業者と協働しながらバスの利用促進に努めた。 また、昨年度に引き続き、路線バス利用促進イベントを開催したほか、バスの日イベントの開催、路線バスの運行状況をスマートフォンなどインターネット環境があれば確認することができる「千歳市路線バス運行情報配信システム」の機能強化を図るなど利用促進に取り組んだ。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A 1. 4系統の収支率について 目標: 47.1% 実績: 49.2% 2. 利用人数について(市調査) ※1日あたりの利用者数 (1)桜木線 目標: 冬352人、夏329人 実績: 冬402人(R06.12月) 夏370人(R07.4月)	本システムについては、今年度収支率の目標を達成することができ、収入も徐々に増加しているが、増加の大きな要因は利用者数の増加ではなく、運賃改定によるものであり、今後安定した収入を確保するためには、利用者の増加させることが必要となってくることから、引き続き、自治体とバス事業者とが連携し、各種改善に向け、さらなる利便性の向上に取り組むとともに利用促進につながるような情報発信に努めていく。
北海道中央バス株式会社	・桜木線① 千歳駅～千歳駅(循環) ・桜木線② 千歳駅～千歳駅(循環) ※ショートカット型	路線の収支率の改善を図るため、バス事業者と利便性・採算性・公共性のバランスを考慮しながら現路線のダイヤ等の検証を行うとともに、利用者数の増加を目標にバス事業者と協働しながらバスの利用促進に努めた。 また、昨年度に引き続き、路線バス利用促進イベントを開催したほか、バスの日イベントの開催、路線バスの運行状況をスマートフォンなどインターネット環境があれば確認することができる「千歳市路線バス運行情報配信システム」の機能強化を図るなど利用促進に取り組んだ。	A 計画通り事業は適切に実施された。	A (2)みどり台線 目標: 冬281人、夏192人 実績: 冬247人(R06.12月) 夏165人(R07.4月) 利用人数について、桜木線は目標を達成したが、みどり台線は目標を達成できなかった。 収入については、目標を上回ることができた。	本システムについては、今年度収支率の目標を達成することができ、収入も徐々に増加しているが、増加の大きな要因は利用者数の増加ではなく、運賃改定によるものであり、今後安定した収入を確保するためには、利用者の増加させることが必要となってくることから、引き続き、自治体とバス事業者とが連携し、各種改善に向け、さらなる利便性の向上に取り組むとともに利用促進につながるような情報発信に努めていく。
東千歳バス運行協議会	東千歳デマンドバス	運行を支えていくために、地域が一体となり、地域住民による口コミや地域の会合での利用促進の周知を行っているほか、市街地への移動が増える忘年会、新年会シーズンにおいては、積極的な周知に努めている。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 1. 収支率について 目標: 16.2% 実績: 15.1% 2. 利用人数について 目標: 500人/年 実績: 389人/年 収支率、利用人数ともに目標を達成することができなかった。 利用頻度の高かった利用者が転居に伴い利用しなくなったことが要因	本システムについては、デマンド型の運行形態をとっており、交通空白地における運行を行っており、収支率については、必然的に低くなっていることもあり、市から補助金を出し、運行を支えている。 運行を行っている地区の人口的に日常利用については、あまり多くはない系統であるが、地元住民にとっては欠かせない移動手段であることから、継続的に運行することができるよう、周知等を行い利用促進につながるよう努めていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	千歳市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>千歳市は支笏洞爺国立公園に指定されている支笏湖を源とする千歳川の清冽な流れと自然が育む豊かな大地に恵まれ、札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接しており、面積は594.50km²で、人口は97,034人(R7.12.1時点)となっている。</p> <p>路線バスの利用者は自家用車の普及等により昭和40年代をピークに減少傾向にあり、また、まちづくりに関する各種市民アンケートでは、路線バスに対する満足度は低い結果となっている。</p> <p>路線バスの利便性を向上させ交通ネットワークを充実させることは、まちづくりにとって重要な要素の一つであることから、平成27年度に地域公共交通網形成計画、平成28年度に地域公共交通再編実施計画を策定し、全市的なバス路線の再編を実施した。</p> <p>また、令和3年度には地域公共交通計画を策定したところであり、本計画に基づき利用者の利便性向上のための運賃制度の導入や各施策の実施など、バス事業者の収支改善に取り組んでいる。</p> <p>しかしながら、路線バスの利便性を向上させることは、財政的負担を伴うことにつながり、バス事業者や市の財政支援で賄うことが極めて困難な状況にあることから、国の地域公共交通確保維持改善事業を活用し、路線バスを基幹とする持続可能な交通ネットワークの構築と充実を図るものである。</p>

千歳市地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

千歳市は支笏洞爺国立公園に指定されている支笏湖を源とする千歳川の清冽な流れと自然が育む豊かな大地に恵まれ、札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接しており、面積は594.50km²で、人口は97,034人(R7.12.1時点)となっている。路線バスの利用者は自家用車の普及等により昭和40年代をピークに減少傾向にあり、また、まちづくりに関する各種市民アンケートでは、路線バスに対する満足度は低い結果となっている。

路線バスの利便性を向上させ交通ネットワークを充実させることは、まちづくりにとって重要な要素の一つであることから、平成27年度に地域公共交通網形成計画、平成28年度に地域公共交通再編実施計画を策定し、全市的なバス路線の再編を実施した。

また、令和3年度には地域公共交通計画を策定したところであり、本計画に基づき利用者の利便性向上のための運賃制度の導入や各施策の実施など、バス事業者の収支改善に取り組んでいる。

しかしながら、路線バスの利便性を向上させることは、財政的負担を伴うことにつながり、バス事業者や市の財政支援で賄うことが極めて困難な状況にあることから、国の地域公共交通確保維持改善事業を活用し、路線バスを基幹とする持続可能な交通ネットワークの構築と充実を図るものである。

生活交通確保維持改善計画の目標

令和7年度申請時における目標を以下のとおり設定した。

① 収支率(桜木線・みどり台線)

	令和7年度
	R6.10～R7.9
目標値	47.1%
実績値	49.2%

② 利用人数(市乗降調査) ※1日あたりの利用者数

	桜木線		みどり台線	
	目標	実績	目標	実績
冬	352人	402人	281人	247人
夏	329人	370人	192人	165人

① 収支率(東千歳デマンドバス)

	令和7年度
	R6.10～R7.9
目標値	16.2%
実績値	15.1%

② 利用人数 ※1年間の利用者数

東千歳デマンドバス	
目標	500人
実績	389人

地域公共交通の現況

・JR千歳線(千歳駅、南千歳駅、新千歳空港駅、長都駅)

・路線バス(北海道中央バス、千歳相互観光バス、道南バス、あつまバス)
16路線(内、地域間幹線系統2路線)

・東千歳デマンドバス(市内1路線)

・長都、中長都、釜加地区デマンドバス(市内1路線)

・スクールバス(6路線)

令和7年度事業概要

【みどり台線】運行事業者:北海道中央バス株式会社

運行区間:千歳駅～みどり台北2丁目

運賃:千歳駅～みどり台北2丁目間 150円～340円

【桜木線】運行事業者:北海道中央バス株式会社

運行区間:以下のとおり

運賃:150円～380円(循環路線)

・桜木線① 千歳駅～千歳駅(循環)

・桜木線② 千歳駅～千歳駅(循環) ※ショートカット型

【東千歳デマンドバス】

運行区域:千歳市東千歳地区(協和、幌加、新川、東丘、中央、泉郷、根志越)

運賃:協和・幌加・新川・東丘:大人600円 小人300円 学生300円

中央・泉郷・根志越:大人400円 小人200円 学生200円

協議会開催状況

令和7年6月23日 第1回協議会を開催

・協議事項:令和6年度事業報告及び決算報告
地域公共交通計画認定申請書(案)

令和7年9月9日 第2回協議会を開催

・協議事項:協議会予算の項目追加

令和7年10月 第3回協議会(書面)を開催

・協議事項:AIオンデマンド交通における道路運送法
第21条申請に係る協議

令和7年12月22日 第4回協議会を開催

・協議事項:地域公共交通確保維持改善事業の
事業評価(案)

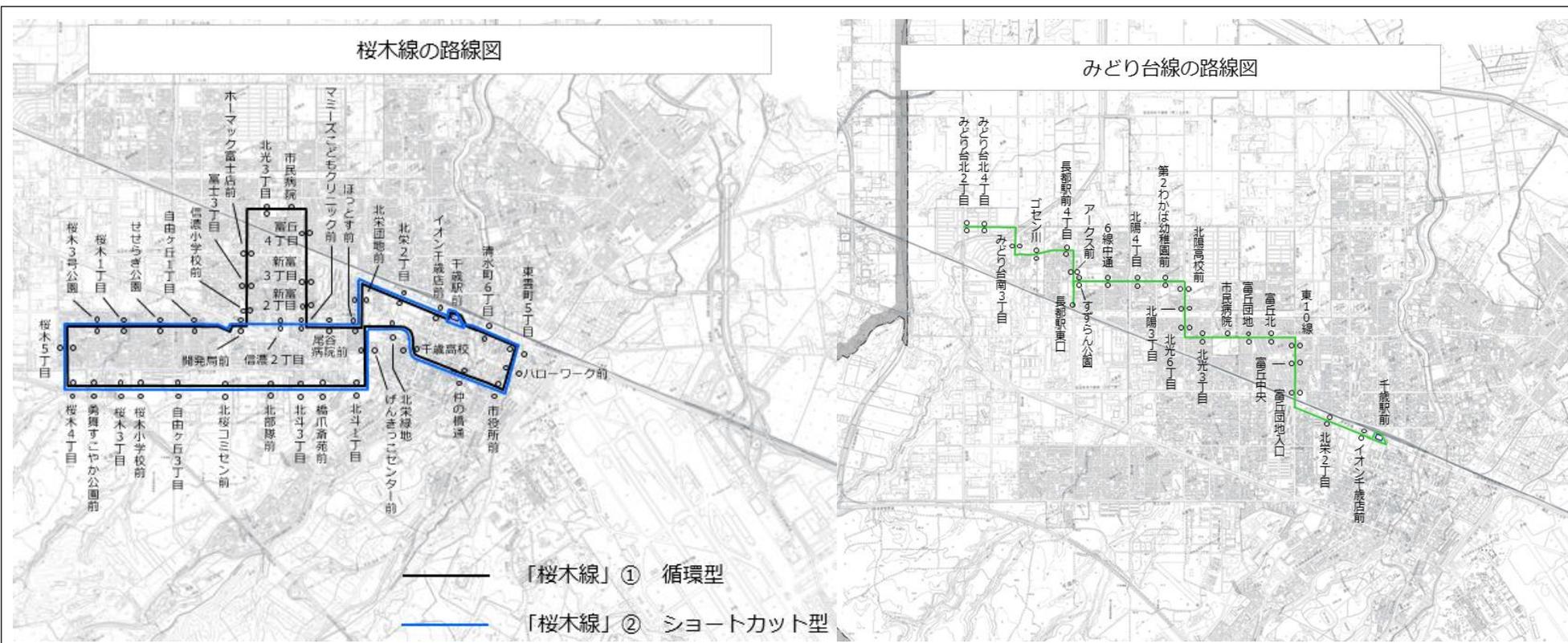
令和7年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

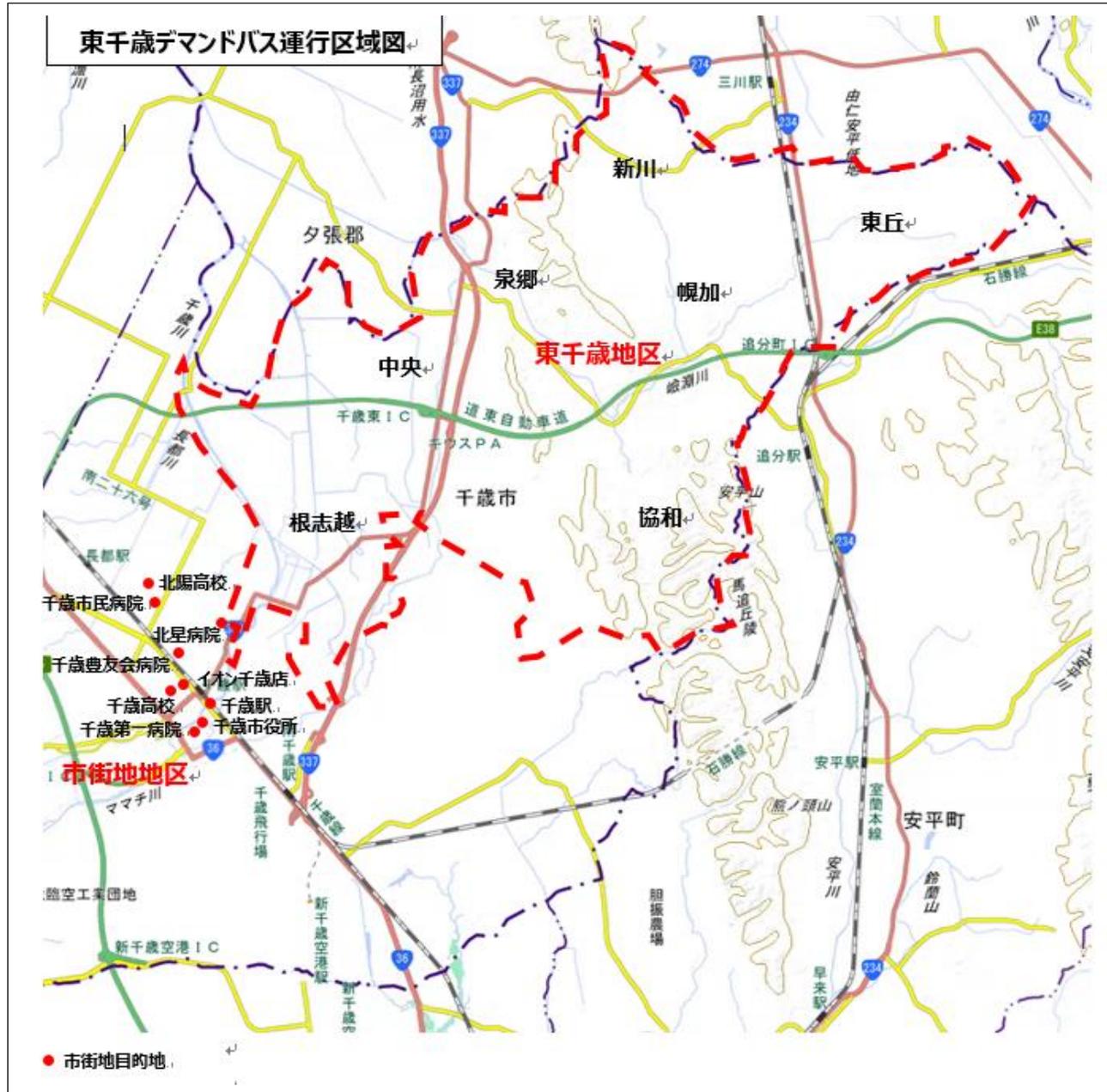
- ・市が提供している路線バス情報配信システムにバスの行先や運賃、現在地を確認することができる機能の追加を行い、路線バス利用者の利便性の向上に努めた。
- ・路線バス利用促進イベントを開催したほか、市内イベントに環境に配慮した移動手段として、ハイブリットバス等を紹介するパネル展を開催するなど、利用促進に取り組んだ。

[R5.10~R6.9の状況]

2) 運行系統（桜木線・みどり台線）

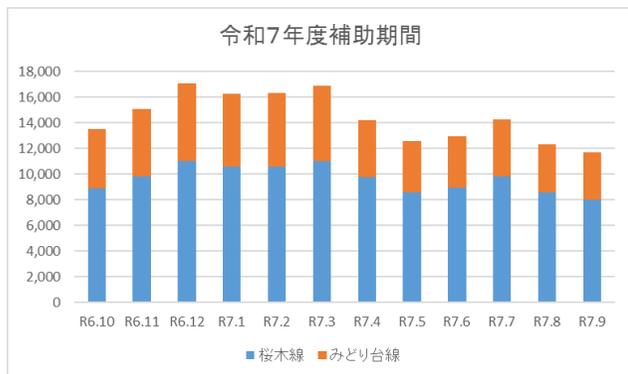


2) 運行系統 (東千歳デマンドバス)



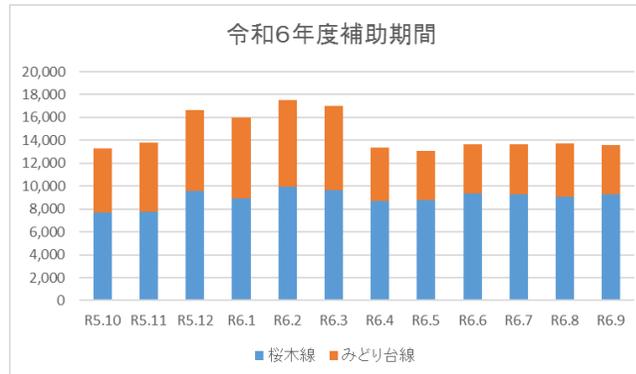
3) 利用実績(桜木線・みどり台線)

単位:人



	桜木線	みどり台線
R6.10	8,902	4,597
R6.11	9,798	5,247
R6.12	10,996	6,052
R7.1	10,551	5,876
R7.2	10,588	5,727
R7.3	11,002	5,891
R7.4	9,741	4,424
R7.5	8,546	3,999
R7.6	8,944	3,988
R7.7	9,803	4,445
R7.8	8,555	3,786
R7.9	8,006	3,675
合計	115,432	57,507

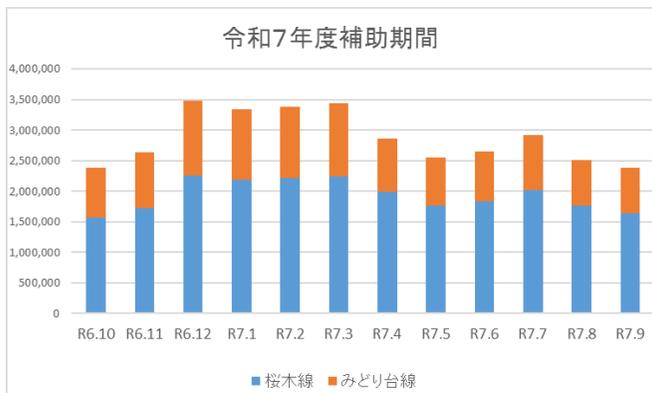
単位:人



	桜木線	みどり台線
R5.10	7,676	5,612
R5.11	7,754	6,031
R5.12	9,582	7,034
R6.1	8,897	7,125
R6.2	9,961	7,585
R6.3	9,666	7,359
R6.4	8,678	4,661
R6.5	8,755	4,329
R6.6	9,334	4,291
R6.7	9,312	4,368
R6.8	9,036	4,726
R6.9	9,297	4,309
合計	107,948	67,430

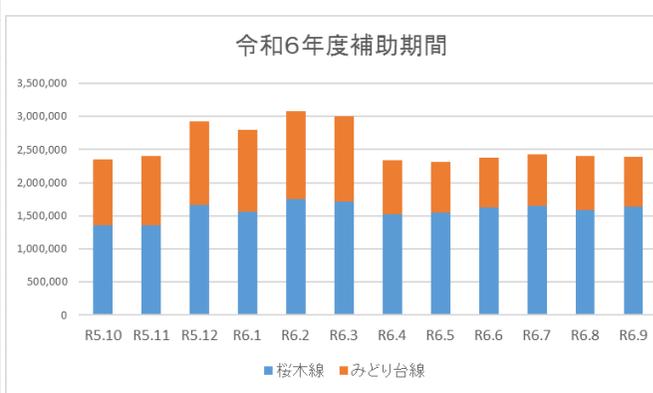
4) 収入実績

単位:円



	桜木線	みどり台線
R6.10	1,567,512	818,791
R6.11	1,727,675	905,895
R6.12	2,253,376	1,232,659
R7.1	2,190,682	1,154,707
R7.2	2,214,836	1,172,302
R7.3	2,238,601	1,194,171
R7.4	1,984,442	877,106
R7.5	1,763,493	787,117
R7.6	1,840,115	811,808
R7.7	2,011,161	908,943
R7.8	1,764,529	739,448
R7.9	1,632,568	745,204
合計	23,188,990	11,348,151

単位:円

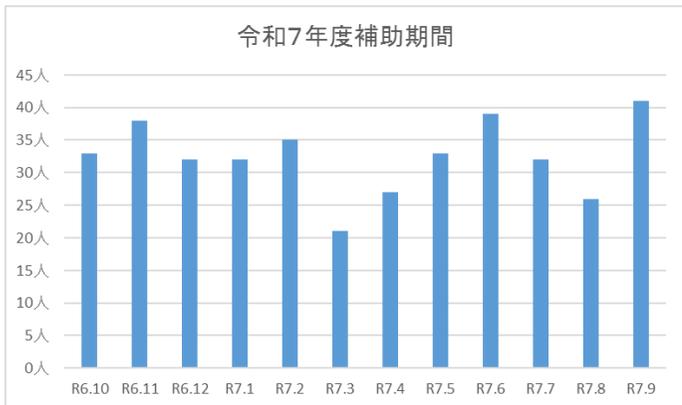


	桜木線	みどり台線
R5.10	1,358,053	997,162
R5.11	1,355,226	1,052,008
R5.12	1,666,668	1,254,456
R6.1	1,559,310	1,233,836
R6.2	1,747,902	1,335,459
R6.3	1,707,540	1,299,587
R6.4	1,527,442	811,120
R6.5	1,552,872	753,982
R6.6	1,625,304	755,836
R6.7	1,646,030	778,642
R6.8	1,588,616	814,868
R6.9	1,630,740	761,639
合計	18,965,703	11,848,595

3) 利用実績 (東千歳デマンドバス)

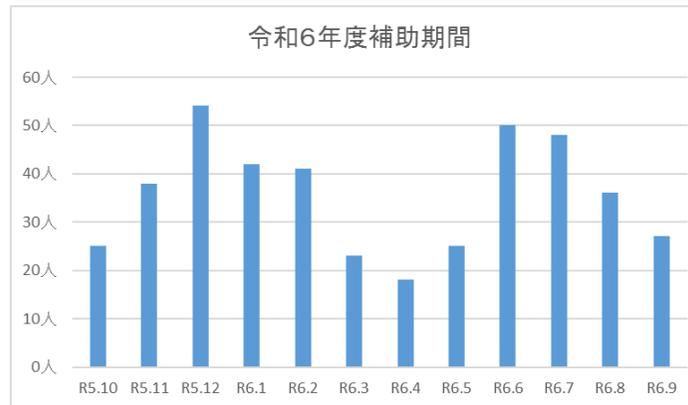
単位: 人

東千歳	
R6.10	33人
R6.11	38人
R6.12	32人
R7.1	32人
R7.2	35人
R7.3	21人
R7.4	27人
R7.5	33人
R7.6	39人
R7.7	32人
R7.8	26人
R7.9	41人
合計	389人



単位: 人
東千歳

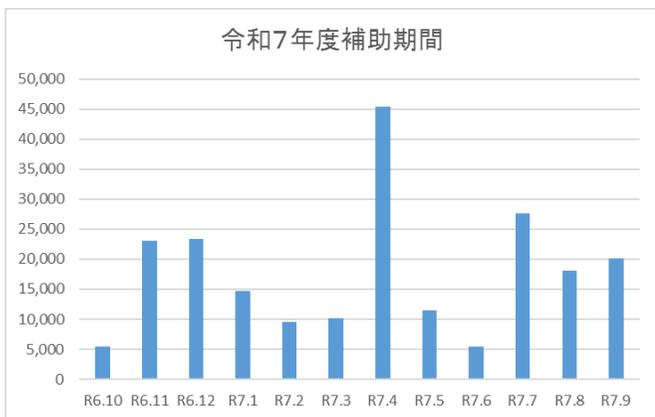
R5.10	25人
R5.11	38人
R5.12	54人
R6.1	42人
R6.2	41人
R6.3	23人
R6.4	18人
R6.5	25人
R6.6	50人
R6.7	48人
R6.8	36人
R6.9	27人
合計	427人



4) 収入実績

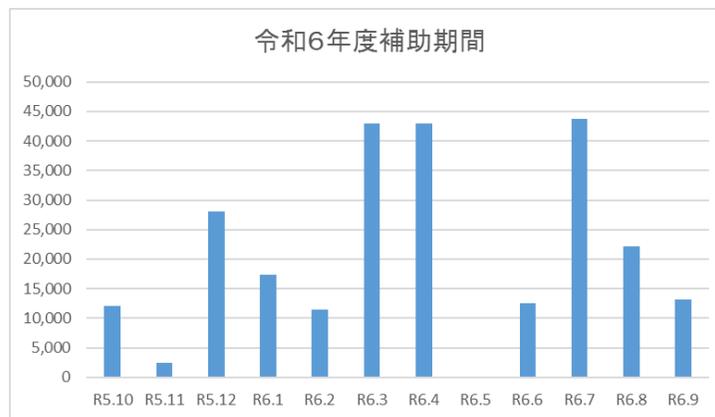
単位: 円

東千歳	
R6.10	5,400
R6.11	23,100
R6.12	23,400
R7.1	14,700
R7.2	9,600
R7.3	10,200
R7.4	45,400
R7.5	11,400
R7.6	5,400
R7.7	27,600
R7.8	18,000
R7.9	20,200
合計	214,400



単位: 円
東千歳

R5.10	12,000
R5.11	2,400
R5.12	28,000
R6.1	17,400
R6.2	11,400
R6.3	43,000
R6.4	43,000
R6.5	0
R6.6	12,600
R6.7	43,800
R6.8	22,200
R6.9	13,200
合計	249,000



5) 事業実施の適切性

計画通り事業は適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

【桜木線・みどり台線】

本系統については、今年度収支率の目標を達成することができ、収入も徐々に増加しているが、増加の大きな要因は利用者数の増加ではなく、運賃改定によるものであり、今後安定した収入を確保するためには、利用者の増加させることが必要となってくることから、引き続き、自治体とバス事業者とが連携し、各種改善に向け、さらなる利便性の向上に取り組むとともに利用促進につながるような情報発信に努めていく。

【東千歳デマンドバス】

本系統については、デマンド型の運行形態をとっており、交通空白地における運行を行っており、収支率については、必然的に低くなっていることもあり、市から補助金を出し、運行を支えている。

運行を行っている地区の人口的に日常利用については、あまり多くはない系統であるが、地元住民にとっては欠かせない移動手段であることから、継続的に運行することができるよう、周知等を行い利用促進につながるよう努めていく。

6) 目標・効果達成状況

1. 収支率について

【桜木線・みどり台線】

目標: 47.1% 実績: 49.2%

【東千歳デマンドバス】

目標: 16.2% 実績: 15.1%

2. 利用人数について（市調査）※1日あたりの利用者数

(1) 桜木線(市調査) ※1日あたりの利用者数

目標: 冬352人、夏329人

実績: 冬402人(R06.12月)、夏370人(R07.4月)

(2) みどり台線(市調査) ※1日あたりの利用者数

目標: 冬281人、夏192人

実績: 冬247人(R06.12月)、夏165人(R07.4月)

利用人数について、桜木線は目標を達成したが、みどり台線は目標を達成できなかった。収入については、目標を上回ることができた。収入については、目標を上回ることができた。

(3) 東千歳デマンドバス※1年間の利用者数

目標: 500人/年

実績: 389人/年

収支率は、目標を達成し、利用人数については目標を達成することができなかった。利用頻度の高かった利用者が転居に伴い利用しなくなったことが要因

8) 地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄